

## 祝 辞

本日ここに北海道白老東高等学校が創立三十周年を迎え、記念式典がこのように盛大に挙行されますことは、誠に喜ばしい限りであり、白老町を代表してお祝いを申し上げます。

歴史を積み重ね、こうして輝かしい節目を迎えることができましたのは偏に歴代校長をはじめとする教職員の皆さん、卒業生の皆さん、そして保護者の皆さんが教育活動の充実に向けて心を一つにして努力されてきたことの証であり、そのご苦勞に対して深く敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

顧みますと、昭和五十年代に「白老町に道立高校の設置を」という機運が高まり、町民の総意により昭和六十年一月に「白老町に道立高校の設置を求める会」が発足致しました。

一万三千人を超える署名を集めるなど、熱意のある誘致運動が実を結び、昭和六十二年四月に百八十三人新入生を迎えることができ、歓喜に沸いたことをきおくしているところです。

眼前に広がる太平洋とヨコスト湿原、そして、背景には秀峰樽前山という豊かな自然に恵まれたキャンパスで、地域の特色を活かしながら、生徒の自主性と独創性を尊重した教育は、町内外から高く評価されております。

これまで輩出してきた有為な人材は三千七百人を超え、変化の激しい社会の要請に応え、全国各地において、第一線で活躍されております。

開校から三十年という講師を刻む中で、貴校は地域からも愛され、特に学校祭における山車のパレードは壮大で町内を練り歩く姿は多くの町民の目を楽しませ、いまや町の風物詩として定着しております。

生徒が精力的に勉学や部活動、ボランティアに励む姿も印象的であり、平成二十二年には硬式野球部が南北北海道大会初出場を果たし、少人数ながら強豪校に喰らいつき奮闘した姿は、町民に勇気と感動を与えてくれました。

また、平成九年には「いきいきとした魅力ある高校づくり推進事業」の指定を受けられるとともに、「他移動高等学校教育実践研究」の指定を受けられ、管内はもとより道内高等教育を牽引する存在として発展を遂げて参りました。

しかし、昨今の少子化による生徒数の減少をはじめとする様々な環境の変化により、平成十四年度に一間口減、今年度からはさらにもう一間口減という厳しい局面を迎えることとなりました。

開校当初に比べると二間口が減少したことから、教育活動に及ぼす影響も大きいものと思いますが、今ここの困難を乗り越え、自彊、聡明、礼節の校訓に立ち返り、これまでの歴史と伝統を受け継ぎ、次の世代に継承していただくことをご期待申し上げます。

白老町と致しましても貴校の運営に対しまして、微力ながら協力していく所存でありますので、どうか関係の皆様方におかれましても、引き続き、末永くご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

結びになりますが、北海道白老東高等学校が四十年、五十年と次の節目に向けて大きく飛躍されますことと併せて本日ご出征期の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、祝辞と致します。

平成二十八年十月二十九日

白老町長 戸田 安彦